

社会課題解決基礎	1	講義	メディア授業 (非同期・双 方向)	社会課題の解決に必要な地域アセスメン ト、課題抽出、目標設定、方策立案、評 価計画立案の一連の流れをシミュレーシ ョンシナリオを用いて学ぶ。
社会課題解決応用	1	講義	メディア授業 (非同期・双 方向)	社会課題の解決に必要なステークホルダ ーとの合意形成と対立の解決方法、コン サルテーションの実際をシミュレーショ ンシナリオを用いて学ぶ。
専門職間社会課題 解決演習 (Interprofession al Service Learning: ISL)	2	演習	同期/非同期 オンライン、 現地演習(海 外連携大学)	海外の提携大学所在地において、現地の サービス活動にチームとして参加し、健 康に関連した社会課題解決に取り組む。 事前学習、現地演習、事後のバーチャル ワークショップにより構成する。

各科目についてはコンテンツを作成中である。専門職連携基礎、専門職連携実践1、専門職連携実践2についてはIPERCでの蓄積を下に、Cultural Competency and Cultural Humilityについては専門家であるメーカー亜希子氏のコンサルテーションを受けつつ構成する。社会課題解決基礎、社会課題解決応用では、社会課題解決のプロセスとスキルについて学ぶことを目的として、実際に地域における社会課題とその解決のための介入に取り組んでいる学内教員や、学外組織・施設等の支援者を講師として招聘し、実例について学ぶ構成とする。これにはISLのフィールドである活動や組織を含め、ISLにつながるものとする。

2-2. 教材開発

2-2-1. 学習要項の作成

学習ガイドとして、学習要項を作成した(資料 参照)。構成は、GRIPプログラムの説明、単位履修、大学院副専攻、獲得する能力・到達目標、具体的な学習の流れ、フィールド演習のトピック、使用する学習ツール、現地演習のフィールドテンプレート、ワークシート、最終プレゼンテーションのテンプレートなどから成る。

内容はGRIPプログラム申請時書類および、参加学生募集説明用資料に準拠しており、特に、獲得をめざす能力とその到達目標については同じ内容である。なお、文化的対応能力であるCultural Competency and Cultural Humilityについては、GRIPプログラムが、健康関連の社会課題解決の支援についての考察等を目的とするため、目的や内容の近似するものとして、米国のCLAS, cultural competency, and cultural humility, US Department of Health and Human Services Office of Minority Healthを参考として内容を追加した。

SIU学生には大学院副専攻の履修等を除き、取得・向上をめざす能力とその説明、フィー

ルド演習のトピック、提出物や成果発表会などの必須部分をのみを抽出し、ボリュームを少なくしたサマリー版を提示した。ワークシートや最終プレゼンテーション用のテンプレートは、直接記入できるように、別添として提示した。

2-2-2. ワークシートおよび学習成果発表プレゼンテーション用テンプレートの作成

ワークシートの作成

常に取得・向上をめざす3つの能力について意識して学習に取り組み、自己の成長と学習課題を認識して計画的に次の学習活動に取り組むため、現地演習について、中間日(4日目)と最終日(8日目)に、リフレクションを行うためのシートを作成し、提示した。なお、本 GRIP プログラムでは多職種共同実践(IPCP: Competencies for Interprofessional Collaborative Practice) 能力取得を目標の一つとしてチームでの課題解決に取り組むため、学生個々のリフレクションに加え、チーム全体としてのリフレクションシートも加えた。

学習成果発表用プレゼンテーション用テンプレート

社会課題解決の能力の項目について焦点化するために、テンプレート化した。さらに、IPCP についても発表項目として含めた。文化的対応能力については、個人的な体験を主となるので個人のレポートとして記述・提出することとした。

2-2-3. 事前学習課題・資料等の作成

IPCP および課題解決

本 GRIP プログラムの主な目的であり必須要素である IPCP 能力そして、IPCP での課題解決への取り組みについて、GRIP プログラム担当教員でもある IPERC (看護学研究院附属専門職連携教育研究センター Interprofessional Education Research Center) 教員が主となってメディア教材を作成した(図 10)。



図 10 IPCP の動画教材スクリーンショット

オンデマンドで視聴できるようにした。加えて、WHO の”Framework for Action on Interprofessional Education & Collaborative Practice”

(<https://www.who.int/publications/i/item/framework-for-action-on-interprofessional-education-collaborative-practice>)を閲覧できるように掲載した。

学生同士の交流ならびにチームビルディング推進

各大学内および大学間の学生の交流を推進するために、各学生の自己紹介動画(2, 3分程度/人)を事前課題として課し、全参加学生がオンデマンドで視聴できるようにした。なお、SIU 学生は渡航準備の VISA 取得手続き等で非常に繁忙であるとのことで、動画で

はなく文書での提出となった。

さらに、双方の大学の学生が、相手大学の学生の学習テーマに関して、自国の資料を提示することを事前提出課題とした。具体的には、千葉大学の学生はインドにおいて子どもに関する課題に取り組むため、SIU 学生がインドの子どもの状況に関する資料(Web上のデータ、文献等)を検索・提示することを課した。その逆として、SIU 学生は日本で高齢者に関する課題に取り組むため、千葉大学学生は日本の高齢者に関する資料を提示した。特に、千葉大学の参加学生の一人である看護学研究科博士後期課程の学生はプレゼンテーション資料として独自にまとめて英語で作成しており、この資料も SIU 学生に提示した。こうして、双方の学生が、まずは自国のことについて調べ、そして他学生の学習を支援するという、相互学習ならびに交流を促進する仕組みとした。

千葉大学学生については、渡航前に、対面での集合は困難であったが、メタバースプラットフォームである oVice においてリアルタイムで全員が集合し、顔合わせや渡航に係る問題提起と検討（インドの学生へのお土産持参について）を行い、チームビルディングに取り組んだ。

日本の地域包括ケアシステム

後述するが、SIU 学生は日本における現地演習テーマとして「日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステム」にもとづいて学習活動を行うため、事前にこの地域包括ケアシステムに関する知識を得ておく必要がある。そのため、GRIP 推進メンバーでもある IPERC メンバー教員がメディア教材を作成し、提示した。

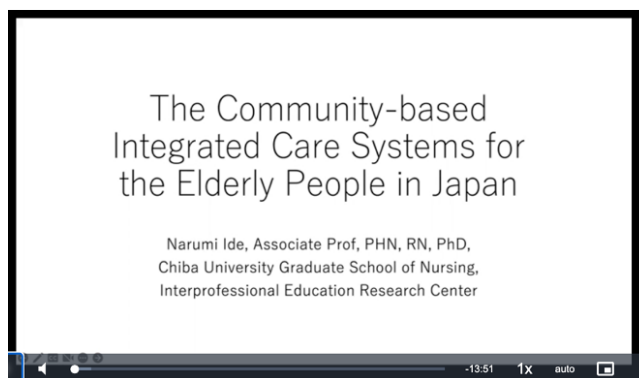


図 11 日本の地域包括ケアシステムに関する動画教材

インドの困難な状況にある子どもに関する資料

千葉大学学生が、インドで困難な状況にある子どもとその支援活動について参加し、学習するため、SIU の SCOPE よりインドの子どもを支援する NGO 活動についての動画教材を提供していただいた。オンデマンドで視聴できるようにした。さらに、インドの危機的状況にある子ども達に関する文献を reading material として提示していただいた。

2-2-4. 学習用プラットフォーム（LMS：Learning Management System）の設定

Google Classroom 上でのクラス作成・設置

千葉大学の LMS である Google Classroom を 2022 年度の GRIP プログラムにおいても使用するため、同プラットフォーム上に、クラスを作成・設置し、教材や課題を配置、提出できるように設定した(図 12, 13)。学習要項においても、そのように予定し、記載した。2022 年度の本プログラムに参加あるいは担当する SIU の参加学生 10 名分、SCIE メ

ンバー1名分、SCOPE 教員1名分、SCON 教員1名分の Google Classroom のアカウントを千葉大学本部に申請し、ビジターアカウントとして取得し（学生は後に千葉大学特別聴講生となったためビジターアカウントではなく、通常の学生アカウントとなった）、同クラスに登録し、SCIE にその旨を伝え、ログインの招待を送った。しかし、SCIE 担当者によると技術的に障壁があるとして Google Classroom 自体にログインがなされず、他の SIU 教員や学生も同クラスにログインすることはなかった。その結果として、この Google Classroom 上のクラスを、SIU 学生や SIU の教員は使用できなかった。そのため、SIU 学生については、事前学習教材や課題については、来日前は SCIE 担当者へメール送信にて周知し、提出物も SCIE 担当者よりメールにて回収した。そして、日本に到着後に Google Space へのログイン法をインストラクションし、Google Space 上での資料提示ならびに課題提出とした。学習要項のサマリーやフィールド資料の一部は紙媒体でも提供した。千葉大学学生に関しては、他科目同様に Google Classroom を使用して学習活動を進行した。



図 12 GRIP プログラム専用の Google Classroom のトップ画面の一部